

市議会 あんな話・こんな話

〜第3話〜

「鹿児島アリーナ」誕生秘話

鹿児島アリーナは、旧鹿児島刑務所跡地に平成4年に建設され、今年で開館20周年を迎えます。その広場には石造りの旧鹿児島刑務所正門が残されており、かつての記憶を留めています。

明治時代に建設された鹿児島刑務所は、明治の五大監獄の一つでしたが、周辺の宅地化が進み、将来の都市計画に支障を生じる恐れがあるとして、昭和46年に鹿児島市が国に移転を申し入れました。すると、国の方でも移転に積極的な対応を見せ、同所の敷地は市に譲渡し、市はこれの見返りとして新刑務所を建築するという「建築交換方式」により実施することになりました。

跡地利用には、各方面からさまざまな意見・要望が寄せられ、市議会でも大いに論議を呼びました。



旧鹿児島刑務所正門と鹿児島アリーナ

昭和60年の第1回定例会では議会が、「市は早く計画を発表せよ。いたずらに時期を遅らせると、かえって事業執行が妨げられることになるのではないか」と、一向にはつきりしない当局の尻をたたいたこともあったようです。

最終的には、後に策定された鹿児島刑務所跡地施設基本計画に沿って多目的アリーナが建設されることになり、鹿児島アリーナが誕生することになったのです。